

東京プログラム ※8月26日現在の公開情報（下線は今回情報を更新するプログラム）

2016年10月20日（木）

- 13:00- 14:45 **スポーツセッション**
ラグビーの魅力・ラグビーワールドカップの力
- ・ラグビーの魅力をアジア等の国々へ伝承
 - ・ラグビーワールドカップ開催がもたらす国内外の社会的・経済的な発展の可能性
- 15:00- 17:00 **東京プレナリー**
- ・基調講演
 - ・官民パネル

2016年10月21日（金）

- 10:00 – 12:00 **スポーツセッション**
オリンピック・パラリンピックがもたらすレガシー
- ・東京大会において、残すべきレガシー
- 13:00 - 17:00 **スポーツ大臣会合**
Sport for Tomorrow
- ・開発と平和のためのスポーツ
 - ・万人のスポーツへのアクセス
 - ・スポーツ・インテグリティの保護
- 09:00- 17:00 **官民ワークショップ**
- ・世界経済フォーラムと連携し、世界の未来を議論
- 10:00- 22:00 **文化会議 分科会**
ここから－アート・デザイン・障害を考える3日間（展示） ※23日（日）まで
- ・障害のある方による優れた芸術作品や、障害のある方のための優れた取組等を紹介
- 13:00- 16:00 **文化芸術活動を通じた多様性を尊重する社会の実現に向けて（仮称）**
- ・障害のある方々による芸術活動や障害のある方々に関わる活動をテーマとしたシンポジウム
- 18:30-22:00 **ユースプログラム**
(調整中) **次世代共創シンポジウム**
- ・2020年、そしてその先の未来に向かう次世代リーダー発のアイデアを国内外に提案

2016年10月22日（土）

- 10:00-13:00 **文化会議 分科会**
バリアフリー映画上映会（仮称）
- ・障害の有無にかかわらずあらゆる人々が共に楽しむことができる映画上映会

今後引き続き、各プログラムの詳細について随時更新して参ります。

※敬称略

スポーツセッション

ラグビーの魅力・ラグビーワールドカップの力

アジア初のラグビーワールドカップの開催国として、ラグビーの魅力をアジア等の国々へ伝承し、ラグビーの普及促進及びラグビーワールドカップの開催がもたらす国内外の社会的・経済的な発展の可能性等について議論を行います。

日時 10月20日(木)13:00～14:45

会場 グランドハイアット東京 コリアンダー

言語 日英同時通訳

登壇者

- ・ビル・ボーモント ワールドラグビー会長
- ・岡村 正 日本ラグビーフットボール協会会長
- ・嶋津 昭 ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長 等

(登壇者情報更新(下線:更新情報))

東京プレナリー

東京プレナリー・基調講演

京都での成果を引継ぎ、東京での開会を宣言するとともに、スポーツ界、経済界の代表より基調講演をいただきます。

官民パネル

民間企業経営者等が大臣等とともに、ステージ上で本フォーラムへの期待や2020年の日本の姿について御発言いただきます。

日時 10月20日(木)15:00～17:00

会場 グランドハイアット東京 グランドボールルーム

言語 日英同時通訳

登壇者

《基調講演・挨拶》

- ・トーマス・バッハ 国際オリンピック委員会(IOC)会長
- ・フィリップ・クレイブン 国際パラリンピック委員会(IPC)会長
- ・ビル・ボーモント ワールドラグビー会長
- ・クラウス・シュワブ 世界経済フォーラム会長 等

《官民パネル》

- ・松野 博一 文部科学大臣
- ・片野坂 真哉 ANAホールディングス株式会社 代表取締役社長
- ・櫻田 謙悟 損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社 グループCEO 取締役社長
- ・遠藤 信博 日本電気株式会社(NEC) 代表取締役会長
- ・根岸 秋男 明治安田生命保険相互会社 取締役代表執行役社長
- ・辻 慎吾 森ビル株式会社 代表取締役社長

スポーツセッション

オリンピック・パラリンピックがもたらすレガシー

ロンドンからリオ、東京へ、そしてその先へ。伝えられるレガシーは何か。未来へ伝えるべきレガシーは何か。2020年に向けて、我々はどのようなアクションを起こすべきか。「アスリート・ファースト」を掲げる東京大会において、様々なレガシーの中でも特にスポーツ分野に重点を置き、どのようなレガシーを残すべきかを考えます。

日時	10月21日(金)10:00～12:00
会場	グランドハイアット東京 グランドボールルーム
言語	日英同時通訳
登壇者	<ul style="list-style-type: none"> ・室伏 広治 東京2020組織委員会スポーツディレクター ・リタ・バン・ドリエル 国際パラリンピック委員会(IPC)委員 ・小谷 実可子 アスリート、オリンピック ・田口 亜希 アスリート、パラリンピアン 等

スポーツ大臣会合

Sport for Tomorrow

各国スポーツ大臣、国内外スポーツ関係者を招いて、国際スポーツ界の重要なイシューである、①開発と平和のためのスポーツ、②万人のスポーツへのアクセス、③スポーツ・インテグリティの保護について議論を行います。各スピーカーから、各イシューについての取組事例紹介を行い、スポーツを通じた社会の発展、国際交流・貢献について議論を深めることを目的としており、議論の成果を国内外に発信することで、スポーツの普及、およびオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを、より一層推進することを目指します。

日時	10月21日(金)13:00～17:00
会場	グランドハイアット東京 グランドボールルーム
言語	日・英・仏 同時通訳
登壇者	<ul style="list-style-type: none"> ・松野 博一 文部科学大臣 ・鈴木 大地 スポーツ庁長官 ・各国スポーツ大臣 等

(概要・登壇者情報等更新(日本政府リードセッション))

官民ワークショップ

ダボス会議を主催する世界経済フォーラムと日本政府が連携し、新たなライフスタイル、健康長寿社会へのアプローチ、若年世代の新たな価値観、過去のトレンドからは到底予想できない破壊的技術革新などをテーマに、約25のセッションにリーダーが集い、世界の未来を議論します。

世界経済フォーラムのコミュニティに属する企業経営者、ヤング・グローバル・リーダーズ、テクノロジーパイオニアなど、60を超える国々からビジネス、政府、市民社会を代表するリーダーが300名以上参加し、日本からの参加者と併せて600名以上が集います。

【官民ワークショップにおける議論とは】

- －2020年に向けて日本が世界をリードするために、取り組むべきことは何か
- －世界的に消費者の行動やニーズを変えつつある新たなデジタルプラットフォーム、文化、ライフスタイルなどに、いかに適応していくか
- －クリエイティブインダストリーの変容から何を学ぶことができるか
- －ソフトパワーに基づく新しい経済・文化のエコシステムがもたらす可能性とは何か
- －最先端の再生医療やロボット技術が、いかにして社会実装されるべきか
- －長寿社会における財政、労働、金融、新産業などは、いかなる変化を起こすか
- －スポーツ産業と他産業との融合は、どのようなビジネス機会の創出につながるか

日時	10月21日(金)9:00～17:00
会場	六本木アカデミーヒルズ
言語	日英同時通訳

※官民ワークショップ日本政府リードセッションの概要、登壇者等が更新されました。詳細については次ページ以降を御覧ください。

官民ワークショップ(日本政府リードセッション詳細)

新しい観光

スポーツ・文化の“体験”による新しい観光の実現を考える

現在、日本のインバウンドは過去経験のないペースで成長しているが、一方でグローバルな課題でもある、都市・地方での消費格差や移動・宿泊キャパシティの不足などの懸念も存在する。本セッションでは、2019年以降、多くの国際スポーツ大会が開催される日本をグローバルモデルケースとし、スポーツ・文化をきっかけとした、持続可能な「新しい観光」と、経済成長のあり方を討議し、そのために必要な官民連携の加速化や各プレーヤーに求められる役割、共創のあり方についても議論する。

パートナー企業 ANAホールディングス(株)

登壇者
 ・片野坂 真哉 ANAホールディングス株式会社代表取締役社長
 ・桑原 祐 マッキンゼーアンドカンパニーパートナー 等

技術革新による、豊かな高齢社会実現に向けて

超高齢化社会の介護分野において、ICT・ロボットの積極活用で何が実現できるのか

超高齢化社会を迎える日本において、将来あるべき高齢者介護・生活支援とは何かを提議し、その解決の一つとして重要なテーマとなってくるICT・ロボットの活用方策を探る。今後、世界的な課題となる超高齢化社会を先取りし、介護分野におけるICT・ロボットの技術革新をベースとした取組みにより何が実現できるのか、人とICT・ロボットが“共存”することで、高齢者・介護スタッフともに幸せになれる、理想の介護の未来、超高齢化社会について、議論・情報発信を行う。

パートナー企業 損保ジャパン日本興亜ホールディングス(株)

登壇者
 ・奥村 幹夫 SOMPOホールディングス株式会社取締役執行役員(介護・ヘルスケア事業オーナー)、SOMPOケア株式会社代表取締役社長
 ・玉置 章文 トヨタ自動車株式会社パートナーロボット部長
 ・斉藤 裕之 パナソニック株式会社エコソリューションズ社事業推進部長
 ・小谷 真生子 経済報道キャスター 等

2020年以降のレガシーに向けたパブリックセーフティ

ICTを活用していかに安全安心な社会を実現するか？その可能性を探る

未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。それは誰にとっても「安全」「安心」という価値が実現された社会である。2020年に向けて様々な国際イベントの開催が予定され、世界中から人が集まる日本で、各関係機関が連携して「安全」「安心」を守るためにはどのような社会インフラが必要だろうか。世界中に頻発するテロを未然に防ぎ、災害時は人命を守り、会場内の異常を検知する等、ICTを活用していかに安全安心な社会を実現するか。その可能性を探る。

パートナー企業 日本電気(株)

登壇者
 ・遠藤 信博 日本電気株式会社(NEC)代表取締役会長 等

官民ワークショップ(日本政府リードセッション詳細)

スポーツが育む“地元愛” 企業にできることとは

住民の地元への愛情と誇りが地域を活性化させる。スポーツと企業が貢献できることは？

都市と地方との格差という社会課題に対し、企業はどのような解決策を講じることができるだろうか。企業がスポーツへの協賛を通じて、地域経済の活性化、地域を担う人材の育成、新たな産業創造などに寄与することができるのかを、企業、スポーツ団体、地方自治体、アスリートなど、さまざまな視点で議論する。

パートナー企業 明治安田生命保険(相)

登壇者

- ・根岸 秋男 明治安田生命保険相互会社取締役 代表執行役社長
- ・馳 浩 前文部科学大臣、衆議院議員
- ・村井 満 公益社団法人日本プロサッカーリーグチェアマン
- ・石倉 洋子 一橋大学名誉教授 等

Future Tokyo as Innovative City

20年後、私達はどのように生きるのか？未来の東京とライフスタイルを描く

グローバルな都市間競争の中で、イノベーションを起こし続け、新しいライフスタイルを生み出す魅力ある都市、それが“Innovative City”。その“Innovative City”には、「テクノロジー」「アート」「都市空間」の三要素が重要である。いま私たちはインダストリー4.0など、テクノロジーや価値観の大きな変革、進化の波を迎えつつある。20年後の東京を舞台に、“Innovative City”を議論する。

パートナー企業 森ビル(株)

登壇者

- ・南條 史生 森美術館館長
- ・市川 宏雄 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科長・教授
- ・伊藤 穰一 マサチューセッツ工科大学メディアラボ所長
- ・竹中 平蔵 東洋大学教授、慶應義塾大学名誉教授 等

サーキュラーエコノミーがもたらす経済成長

地方創生実現への切り札

製品、ノウハウ、人材、設備等、企業が持つ、あらゆる資産をフルに「稼働」させて収益成長を図るサーキュラーエコノミーの考え方は、地域経済の成長を通じた地方創生の起爆剤になりうる。そのためには地域の中の産学官のそれぞれが持つ資産の相互活用を可能とするエコシステム、リキッド・ワークフォース(適時適材適所)を実現する新たな雇用形態、IoTを含むデジタルテクノロジーのプラットフォーム等がカギとなる。課題と解決のアプローチについて世界の具体例を引き、議論する。

パートナー企業 アクセンチュア(株)

登壇者

- ・セシール・ヴァン・オッペン Copper8 共同創設者
- ・ピーター・レイシー アクセンチュア・ストラテジー サステナビリティサービスグループ グローバル・マネジング・ディレクター 等

官民ワークショップ(日本政府リードセッション詳細)

言語の壁を越えるコミュニケーションとしてのアニメ・日本のポップカルチャーの可能性

グローバル社会における、文化と言語の壁を越える新たなコミュニケーションツールとその方法を考える社会がグローバル化、多様化、複雑化し、それぞれのバックグラウンドが異なる人同士がコミュニケーションを図る機会が増えている。グローバルな多様化社会が拡大する中、アニメや日本のポップカルチャーのような非言語のイメージツールをビジネスや生活、教育で活用する方策等を議論したい。

パートナー企業

(株)アサツー ディ・ケイ

登壇者

・宮河 恭夫 株式会社サンライズ代表取締役社長、株式会社バンダイナムコピクチャーズ代表取締役社長
 ・齋藤 精一 株式会社ライゾマティクスクリエイティブディレクター、テクニカルディレクター
 ・ミーシャ・ジャネット ファッションジャーナリスト、スタイリスト
 ・梅澤 高明 A.T. カーニー日本法人会長 等

2050年の食を考える

食の価値・楽しみを失うことなくサステナブルな食への解決策とは

2050年世界人口は90億人に達する。食料問題は世界規模で深刻化し、食料安定確保に向けて様々な解決策が議論されているが、食べることは単に生命維持だけではなく、「健康維持・促進のための栄養確保」、「味わい人と楽しむ精神的満足」、「郷土料理や伝統食等の食文化」の視点でも大きな価値がある。つまり、食の危機は、文化の危機であり、人間の危機である。これら食の価値や楽しみを失うことなく、2050年90億人を支えるサステナブルな食卓への解決策とは？栄養バランス、生活の質の向上、食文化の観点から、未来食を考える。

パートナー企業

味の素(株)

登壇者

・西井 孝明 味の素株式会社代表取締役 取締役社長 最高経営責任者
 ・武見 ゆかり 特定非営利活動法人日本栄養改善学会理事長
 ・ジョン・クレブス卿 オックスフォード大学シーザスカレッジ前学長 等

エンタテインメントはデジタルでどのように進化するのか

デジタル革命によるエンタテインメントの進化と音楽の未来を考える

音楽をはじめとしたエンタテインメントを取巻く環境は、デジタルの進歩により著しく変化している。CDメディアからサブスクリプションサービスや動画投稿サービスなどへ音楽の聴き方が変わるとともに、ライブにおいてリアルな体験を求めることも主流となっている。

また、ライブもデジタルの進歩により、VRやARを駆使した内容に変化し、より充実度の高いリアル体験が可能となってきた。そのような中、これからのエンタテインメントが進む方向と可能性について議論していきたい。

パートナー企業

エイベックス・グループ・ホールディングス(株)

登壇者

・松浦 勝人 エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社代表取締役社長CEO 等

官民ワークショップ(日本政府リードセッション詳細)

企業は、アスリートと国民の絆を結べるか？

企業とアスリートが直接つながり、WinWinの関係を構築できる新たな相互支援のあり方を考える

アスリートに対するスポンサーのあり方は、インターネットの発展によって大きく変わりつつある。個人とアスリートが直接つながる新たなITプラットフォームの台頭は、アスリートにどのような恩恵を与えるか。アスリートとスポンサーの関係は、ビジネスにどのような影響を与えるだろうか。

パートナー企業 (株)サイバード、(株)エイブル&パートナーズ、(株)アシックス

登壇者

- ・佐藤 茂 株式会社エイブル&パートナーズ代表取締役会長兼社長 CEO
- ・小寺 昇二 埼玉工業大学人間社会学部情報社会学科教授
- ・高橋 道和 スポーツ庁次長
- ・堀 主知ロバート 株式会社サイバード顧問 等

再生医療の将来

再生医療はどう社会に貢献できるのか？

日本が牽引する再生医療の切り札、iPS細胞の作製の論文が発表されてから今年で10年。2014年9月にiPS細胞由来の網膜移植手術が世界に先駆けて日本で執り行われたことは記憶に新しく、同年11月には再生医療の実用化を促進する法制度が整えられるなど、すでに日本は再生医療の実現と普及に向けて国を挙げた取り組みを行なっている。

今後実用化フェーズを迎える再生医療は実際にどのような形で社会に貢献することができるのか。再生医療がもたらす病気の治療、新薬の開発等、医療のブレークスルーについて考える。

パートナー企業 武田薬品工業(株)

登壇者

- ・出雲 正剛 武田薬品工業株式会社再生医療ユニットグローバルヘッド、日本サイエンティフィックアフェアーズヘッド
- ・澤 芳樹 大阪大学大学院医学系研究科長
- ・原 丈人 アライアンス・フォーラム財団代表理事、大阪大学大学院医学系研究科招聘教授、内閣府参与 等

テクノロジーは人間から何を奪うのか

人間とデジタルの再結合

高度テクノロジー社会において、コミュニケーションは生物間だけではなく、生物とコンピュータ、物と物すべてがIoTでつながり、劇的に変容して行く。バーチャルとリアリティはどこまで溶け合うのか。バーチャルの中に身体性は存在するのか。そして、精神や身体とテクノロジーの融合は実現可能なのか。

武道、茶道、禅、侘び寂び等もヒントに、デジタルテクノロジー社会における「主体としての人間とは何か」を再考し、豊かなテクノロジー社会を築くためのブレークスルーを考える。”テクノロジーに人間を奪われない”ために。

パートナー企業 凸版印刷(株)

登壇者

- ・金子 真吾 凸版印刷株式会社代表取締役社長
- ・落合 陽一 筑波大学助教
- ・スプツニ子！ 現代美術家、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教
- ・小川 和也 グランドデザイン株式会社代表取締役社長 等

官民ワークショップ(日本政府リードセッション詳細)

金融ジェロントロジー

高齢者の活躍する社会が、健康寿命・資産寿命伸長への第一歩

生命寿命の伸張に合わせて、健康寿命も伸ばすことが重要である。加えて、加齢とともに金融資産も増えることから、長寿リスクに対応した資産寿命の確保も大切となる。それらを総合的に捉えるのが、金融ジェロントロジーである。本セッションでは、3つの寿命の伸張をめぐる課題について議論したい。

パートナー企業 野村ホールディングス(株)

登壇者

- ・岩崎 俊博 野村資本市場研究所社長、野村ホールディングス株式会社執行役、野村證券株式会社副社長
- ・武林 亨 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科委員長・教授(医学部衛生学公衆衛生学)
- ・清家 篤 慶應義塾塾長、博士(商学) 等

健康がお金を生む？

健康長寿社会の実現へ向け財政の支えなしに持続可能な仕組みづくりを考える

財政負担増という高齢社会のネガティブな面がある一方で、高齢社会は新たな産業を生み出すというポジティブな面もある。高齢社会の先頭を走る日本において、予防や健康管理をマネタイズする取り組みが始まっている。ビッグデータ分析や官民連携の視点から、持続可能な健康長寿社会の可能性を探りつつ、将来的に新たなヘルスケア産業が生まれ健康格差、富の格差が解消するという、世界経済の新たな成長と発展の形を議論する。

パートナー企業 (株)みずほフィナンシャルグループ

登壇者

- ・佐藤 康博 株式会社みずほフィナンシャルグループ取締役 執行役社長 グループCEO
- ・久野 譜也 筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
- ・湯崎 英彦 広島県知事
- ・飯田 香織 日本放送協会報道局経済部副部長 等

身体障がい個性となる未来 ～機能不全の克服～

ロボットスーツと再生医療の連携で、いかにによりよい未来を作れるか

歩く、走る、飛ぶ、止まる。座る、立つ、つかむ、投げる。人間は、基本的な身体動作ができなくなった時、それが奇跡的なバランスで機能していることを知る。その機能をいったん失っても、医療用ロボットスーツや義足などのバイオニックデザインと再生医療の連携や相互補完によって、再び、自分らしく生き生きと活躍できるKAITEKI社会の実現は近い。2025年をマイルストーンとした技術開発の方向性はどこに向かうだろうか。アカデミアからは、最先端技術と現在の課題を提示し、障がいをもつ方からは、イノベーションへの期待や社会に向けた提言を行う。科学技術政策や社会政策についても考える。

パートナー企業 (株)三菱ケミカルホールディングス

登壇者

- ・木曾 誠一 株式会社生命科学インスティテュート代表取締役社長
- ・山海 嘉之 科学技術振興機構 内閣府ImPACTプログラム プログラムマネージャー、筑波大学教授 サイバニクス研究センター長、CYBERDYNE株式会社代表取締役社長 CEO
- ・出澤 真理 東北大学大学院医学研究科細胞組織分野教授、医学博士
- ・御立 尚資 経済同友会副代表幹事 等

官民ワークショップ(日本政府リードセッション詳細)

Communi-TEA

日本の生活文化、思いをつなぐ緑茶

緑茶は、約1200年前に日本に伝来して以来、飲み方や製造方法を変化させながら、日本の生活の中に根づいてきた。食事と一緒に、休憩時に、そしてお客様のおもてなしに、緑茶はなくてはならない飲み物となっている。緑茶には「五感に響く素晴らしさ」がある。健康にも優れていて、世界のクリエイティブな方々に人気がある。お茶を淹れた後に残る茶殻の再利用(堆肥やエコプロダクト)やICTによるお茶の生産管理等、新しい視点が求められている。日本の生活文化でもある日本茶を世界に広げ、語り合い、思いをつなぎ合いたい。

パートナー企業

(株)伊藤園

登壇者

・本庄 大介 株式会社伊藤園代表取締役社長 等

東大寺1300年の歴史に見る持続可能な経営

継続すること、繋がること、そして、共に取り組むこと

日本文化の象徴であり、1300年もの長きにわたり機能し続ける日本最古の組織ともいえる東大寺。そこにはリーダーと人々の固い絆と熱い想い、そして希望があった。科学技術は発展してきており、人々の暮らしや働き方なども少しずつ変化している。これからの時代を生き残っていく組織、そしてリーダーに求められるものは何だろうか。「人間らしさ」に焦点を当てながら、幾多のリスクと対峙してきた東大寺から普遍的で持続可能な経営のヒントを探る。

パートナー企業

マーシュ・アンド・マクレナン・カンパニーズ

登壇者

・森本 公穰 東大寺庶務執事・塔頭清涼院住職
・平賀 暁 マーシュブローカー・ジャパン株式会社代表取締役会長 等

文化会議 分科会(展示)

ここから-アート・デザイン・障害を考える3日間

オリンピック憲章の「オリンピズムの根本原則」では、「オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである」とされています。これはアスリートだけでなく、すべての人に向けられた原則です。この根本原則に向けて、あらゆる人々が新たな意識で生きるための一歩を踏み出すことを目標に、展示会を「ここから」と名付けました。この展示会では、我が国における現時点での障害のある方による優れた芸術作品や障害のある方のための優れた取組等を紹介し、これらの作品との出会いにより、あらゆる人々にとって新たな意識、新たな「生き方の創造」につながっていくことを願っています。

入場料:無料

日時	10月21日(金)～10月23日(日) 21日(金) 10:00～22:00 22日(土) 10:00～22:00 23日(日) 10:00～18:00
----	---

会場	国立新美術館 2階企画展示室
----	----------------

(登壇者情報更新(下線:更新情報))

文化会議 分科会

文化芸術活動を通じた多様性を尊重する社会の実現に向けて(仮称)

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、スポーツや文化芸術を通して、日本全体を盛り上げていく機運が高まる中、障害の有無にかかわらず、あらゆる人々が様々な場で文化芸術の創造・鑑賞活動に参加できる社会的包摂に係る取組を進めていくことが求められています。このため、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとともに文化芸術による社会的包摂の取組を進めていくことにより、多様性を尊重する社会の実現、ひいては芸術文化のさらなる発展へとつながるよう、内外の有識者をお迎えし、障害のある方々による芸術活動や障害のある方々に関わる活動をテーマとしたシンポジウムを開催します。

日時	10月21日(金)13:00～16:00
----	----------------------

会場	国立新美術館 3階講堂
----	-------------

言語	日英同時通訳、手話通訳等あり
----	----------------

登壇者	<ul style="list-style-type: none"> ・宮田 亮平 文化庁長官 ・青木 保 国立新美術館長 ・ジェニー・シーレイ グレイアイ・シアター・カンパニー芸術監督 ・東 ちづる 女優、一般社団法人Get in touch 理事長 ・日比野 克彦 アーティスト、東京藝術大学教授 ・森田 かずよ ダンサー、NPO法人ピースポット・ワンフォー理事長 ・山中 俊治 東京大学大学院情報学環教授 ・野澤 和弘 毎日新聞論説委員
-----	---

(新たに情報を追加したプログラム)

ユースプログラム

次世代共創シンポジウム

次世代共創シンポジウムは、2020年に活躍が期待される大学生を中心とした次世代リーダーが集い、グローバル企業・行政機関・非営利組織等の多様なセクターで活躍する国内外の若手リーダーとともに、持続可能な社会の在り方について共に語り、新たなアイデアを共に創り上げる場です。
スポーツ・文化・経済・行政・市民社会の領域を超えた協働や、イニシアティブを生み出し、2020年、そしてその先の未来に向かう次世代リーダー発のアイデアを国内外に提案します。

日時	10月21日(金) 18:30～22:00(調整中)
----	----------------------------

会場	六本木アカデミーヒルズ
----	-------------

言語	原則英語
----	------

登壇者	未定
-----	----

文化会議 分科会

バリアフリー映画上映会(仮称)

障害のある方々が、文化的な作品、映画、演劇その他の文化的な活動を楽しむ機会を有し、また、劇場、映画館など文化的な公演が行われる場所を利用する機会を有するための措置を締約国はとることなどが障害者権利条約においてうたわれています。

こうした中、国内の関連法制が整備され、各文化施設事業者の努力もあり、施設のバリアフリー化や映画の字幕付与率など年々高まりつつある状況にあります。このたび、文化芸術による社会的包摂の取組の一環として、我が国の現時点での最新技術により、障害のある方々が不自由なく映画を鑑賞し、障害の有無にかかわらずあらゆる人々が共に楽しむことができる映画上映会を開催します。

日時	10月22日(土) 10:00～13:00
----	-----------------------

会場	国立新美術館 3階講堂
----	-------------

言語	日本語 視覚・聴覚障害者対応
----	----------------

登壇者	未定
-----	----